

北からの侵入を防御する巨大な土塁・堀が姿を現しました。

田辺城跡の発掘調査は順調に進み、北端の土塁・堀などの調査がほぼ終了しました。この土塁・堀は調査を行う前から確認できていたものですが、その全貌が明らかになってきました。

堀は礫層を掘りぬいており、その礫を盛り土として土塁が造られています。堀の底と土塁の頂上は最大で6m以上の高低差があり、簡単に登ることはできません。また、土塁・堀を屈曲させたり、段差を設けたりすることにより、敵の侵入を防ぐ工夫がみられます。土塁と堀は切れ目があり、その部分は土橋・虎口（こぐち・出入り口）として利用されたと考えられます。

これらの成果をみなさまに間近で見いただくために、10月31日（土）10時から、現地説明会を開催します。ぜひ、田辺城跡に足をお運びください。



堀・土橋を掘削するようす（東から）



屈曲・段差のある西側土塁・堀（東から）



掘削終了後の土塁・堀・土橋（東から）



掘削終了後の虎口・土橋（南から）

<問い合わせ先>

〒511-0415 いなべ市北勢町東貝野454番地

三重県埋蔵文化財センター調査研究4課 いなべ整理所 担当者：水谷、萩原、河瀬

電話番号：0594-72-8955 090-8552-4248 FAX：0594-72-8970

E-mail：maibun@pref.mie.lg.jp